



吉村 範明(よしむらのりあき)議員

### 産み育てやすく、 末永く住むことができるこまつへ

◆子育て世代への応援・支援策について

**Q** 他の自治体では一部出産育児見祝い金制度を創設している。早期の創設を。

**A** 一時金の支給ではなく、切れ目のない施策の展開を通じて子育てしやすい環境づくりに努めたい。

**Q** 乳幼児健康診査を平日の他、休日も開催しては。

**A** 医師をはじめ、マンパワーの確保が課題である。

**Q** 妊婦健康診査は14回公費負担されているが、超えることもある。回数を増やせ。

**A** 個人に応じた対応を前向きに検討したい。

◆地域包括支援センター増設に向けた本市の取り組み方について  
**Q** 新設後2年半経ったが、行政の評価は。

**A** アンケート調査を実施し評価を行うこととしている。

**Q** 増設で減員となる施設がある。機能低下の恐れは。

**A** 運営上の機能低下につながることはないと考えている。

**Q** 現センターと地域は密着しているが、新センターにどう引き継ぐのか。

**A** 民生委員、町内会などと連携、協働関係を図っていきたい。

**Q** 圏域設定について相談を受けたが、地域と密に話し合いをしたか。

**A** 今後とも地域との連携を一層図りながら圏域の設定を行ってきたい。

**Q** 相談は多岐にわたるが、困難事例の支援は。

**A** 業務に対する助言指導や情報の共有を通して対応している。

**Q** 民生委員をはじめ、地域への説明は。

**A** 委託法人の決定後、よりよいセンターのあり方に向けて協議を進めたい。

**Q** これまでのつながりを求めている住民への配慮は。

**A** センター連絡会などを通じて必要な協議を行っていききたい。

**Q** 地域とセンターとの連携はあるが、行政はもつと連携すべきだ。もちろん、そのようにやるのが公務員としての当然のスタンスである。



片山 瞬次郎(かたやましゅんじろう)議員

### サイエンスヒルズこまつ 発展のために

**Q** サイエンスヒルズこまつ宇宙教育充実のために国立天文台との連携強化を。

**A** 9月28日に国立天文台の林台長にお越しいただき、「天文学の普及に関する協定書」を締結することになっている。国立天文台がやっている3Dのさまざまな番組など、素晴らしい映像を提供いただけると聞いている。

**Q** 九竜橋川排水機場の洪水排水ポンプ増設および排水路整備とそ



9月28日に行われた国立天文台との調印式

**A** 近年多発する豪雨に対して、平成27年度より梯川へ排水する排水機場の強制排水能力を高めるために3基目の洪水用ポンプの増設工事に着手し、排水能力を倍増させることとしている。また、本年度より、こまつ杜北側の約320メートルの区間について複断面化する工事に着手し、流下能力の向上を図ることとしている。

今後とも本市が所管する区間の九竜橋川排水路については、排水路という観点から下流側から効果的な整備を促進していきたいと考えている。

**Q** 子ども・子育て支援新制度について。

**A** 現在、子ども・子育て会議において、事業計画の策定に向け施設の利用定員や地域子ども・子育て支援事業の必要量について審議をしているところである。本市の幼稚園及び保育所において近隣市から広域的に受け入れをしている多数の児童についても十分考慮し、事業計画に反映していきたい。

また、私立幼稚園は制度への移行に対して難しい問題が多いため、引き続き情報の提供や検討会などを行い、新制度へ円滑に移行できるように、市として最大限の努力をしていきたい。



杉林 憲治(すぎばやしけんじ)議員

## 学校統廃合の新たな指針

**Q** 国において学校規模の適正化を促進する新たな指針はどのようなものか。現行の学校統廃合との違いは。

**A** 教育の質を確保する上で必要な子供の数や学級数を維持することなどが挙げられている。

**Q** 金沢市、加賀市では学校規模の適正化に関する懇話会や検討委員会を設置している。小松市として検討委員会を設置する考えはあるか。

**A** 検討委員会の設置の目的は、学校の適正配置について課題を整理し、より良い方向性を見出し、適切にことごとく捉えており、必要に応じて設置していきたいと考えている。

**Q** 学校は学習の場であると同時に集団生活を通して社会性やコミュニケーション能力などを身につける場である。統廃合に係るメリット、デメリットは何か。

**A** 規模が大きくなることによるメリットは、たくさんの友達と出逢い、様々な活動や体験を通して生きるための基盤となる豊かな人間性や社会性が養われること、集団の中での切磋琢磨の機会が増えることにより、主体性や取り組みへの意欲の高まりが期待されることである。



楽しく勉強する児童たち

デメリットは、人が育つプロセスにおけるさまざまな困難において、一人ひとりの実情やその心の中を把握することが困難になることである。

**Q** 小松市は人口に対し行政面積が広い。そのため、小中学校数は多いと言われてきた。現在、指針で示されている1校あたり12から18学級という適正規模に対し、過不足である学校数はどのくらいになるか。

**A** 現在、小中学校35校中22校が標準とする学級数に満たない状況である。



橋本 米子(はしもとよねこ)議員

## 住宅リフォーム助成制度の導入について

◆住宅リフォーム助成制度は地域活性化策に有効と思う

**Q** 消費落ち込みの中、この制度は全国的にも広がり、景気対策、高齢者支援、定住促進策にも波及し、是非小松市でも導入を求めたい。

**A** 平成25年度の各種住宅関連助成制度の利用件数は総計で1653件のほり、個人事業者や零細企業に対しても受注機会を多く創出するなど、地域経済の活性化に寄与していると考えており、実質的には他市町が行っている住宅リフォーム制度以上に細やかでスケールの大きなものになっていると思っている。



住宅リフォーム助成で高齢者支援を願う

◆来年4月から始まる子ども・子育て支援新制度について

**Q** この制度は、保育の市場化を目指す、制度を根本から転換するものとなっているが、その概要はどうか。

**A** 施設形態が多様化することになるが、新たに導入される小規模施設についても適宜管理運営体制を指導、監督することとなっている。

**Q** 保育ニーズ量調査を見ると、0歳から2歳児の保育ニーズが多いが、支援計画にどう生かすか。

**A** 現在のところ待機児童はおらず、保育希望者全員が受け入れ可能な状況となっている。

**Q** 保護者への説明会の開催は。

**A** 10月に開催を予定している保育所オープンハウス事業において、新規入所希望者や保護者を対象とした説明会を同時に開催することとしている。

◆小松基地について

**Q** 小松基地所属のF15戦闘機がアメリカのアラスカ州沖で多国籍軍演習に参加している。危険な訓練移転・航空祭は中止を求める。

**A** 安全を最優先することは当然であるが、訓練移転、航空祭とも必要であると思っている。



吉本 慎太郎(よしもと しんたろう)議員

## 介護現場における ロボット機器の導入について

◆今回、県内で初めて高齢者の自立支援、認知症のケアや介護従事者の負担軽減を目的に、ロボット介護機器の導入助成が行われる。

**Q** 現状、どれくらいの需要と普及促進を想定しているのか。

**A** まずは、介護サービス事業者・施設での導入を図り、その効果の検証を行いながら、ロボットの普及と裾野の拡大に努めていきたい。

**Q** 導入予定の7品目の介護ロボットは各々のニーズに即しているか。

**A** 大きくはコミュニケーション・メンタルケア、介護負担の軽減、自立支援の3つのカテゴリーに分類される介護ロボットの導入を考えているが、これら以外のニーズがあれば、市のほうで相談に応じていきたい。



介護負担を軽減する「マッスルスーツ」

**Q** 自宅介護者への早期導入の検討を。

**A** 国におけるロボットの介護保険への適用に向けた動向も踏まえながら、前向きに検討していきたい。

◆沖周辺土地区画整理事業について

**Q** この事業の現状とこれからの推移について、市はどの程度理解・了解し、把握しているのか。

**A** 現在、事業地南側の2.5ヘクタールについて開発許可手続きのための市街化編入手続を進めているところである。

**Q** 予定される大型商業施設の出店の声が錯綜している。この問題に対する行政のスタンスを明確にし、出店した際の小松市及び南加賀全体における影響力調査を行う事を要望する。

**A** 旧市街地との共存共栄が成り立つよう進めてきたと自負している。影響力調査については、今後の課題として捉えていきたい。

## ファシリティマネジメント

※4ページ

「業務用不動産(土地、建物、構築物、設備等)すべてを経営にとって最適な状態(コスト最小、効果最大)で保有し、運営し、維持するための総合的な管理手法」と定義されます。

企業や官公庁、営利・非営利を問わず、業務遂行において不動産を利用する組織を対象とした施設の管理・運用手法です。

又、企業が保有・管理するすべての施設を対象として、竣工後(土地は取得、建物は施工、設備は設置の後)これらをうまく使っていくために必要なあらゆるマネジメント、経営的視点に立って建築物等のファシリティを有効・適切に計画・運営・管理し、ダイナミックな企業活動の展開に貢献する全体的な取り組みを言います。

## 住宅用地に対する課税標準の特例

※8ページ

**小規模住宅用地**……200平方メートル以下の住宅用地(200平方メートルを超える場合は住宅1戸あたり200平方メートルまでの部分)を小規模住宅用地といいます。

小規模住宅用地の課税標準額については、価格の6分の1の額とする特例措置があります。

**その他の住宅用地**…小規模住宅用地以外の住宅用地をいいます。

例えば、300平方メートルの住宅用地(一戸建住宅の敷地)であれば、200平方メートル分が小規模住宅用地で、残りの100平方メートル分がその他の住宅用地となります。その他の住宅用地の課税標準額については、価格の3分の1の額とする特例措置があります。



# 連合審査会の開催

今回の連合審査会は、9月12日に議場において開催しました。制限時間の中、一問一答形式で活発な質疑を行いました。質問と答えの内容を要約してお知らせします。

※小松市議会ホームページにおいて録画映像を配信しています。ぜひご覧ください。

## 自民党こまつ

梅田 利和議員

◆介護ロボット普及推進費について

Q 介護ロボット普及推進費導入の経緯・目的は。

A 介護する側の負担軽減と介護される側の自立支援を目的としている。

Q 補助対象・助成制度の概要は。

A 介護サービス事業者、施設を対象に実施する。

Q 介護ロボットは、介護サービスを支援する機能や用途によってさまざまなものが開発されているが、本市においては。

A 介護従事者の負担軽減、リハビリ等の機能回復、コミュニケーション・メンタルケアの3つの視点からの導入を考えている。

Q 普及促進に向けた今後の取り組みは。

A いずれは、在宅介護への普及にもつながっていくべきかと思っている。

円地 仁志議員

◆ひとものづくり科学館管理運営費について

Q オープン前の段階で、有料入館者数10万人の前提で年間7200万円の年間実質

負担が生じることであったが、オープンから現在までの状況を踏まえ、年間見直しは。

A 最終的な見直しまでは今の段階ではお話しできないが、年の後半に向けて精一杯努力させていただきたい。

◆市営住宅整備費について

Q 補正予算1000万円の内訳は。

A 空き家の解体工事に700万円、消防設備の修繕工事に300万円となっている。

Q これからの市営住宅のあり方、計画は。

A 小松市住宅マスタープランにより、平成45年度末の小松市の世帯数の推計値から、平成45年度末の市営住宅の戸数を577戸とする計画である。

Q 住宅に困窮されている方々、現在入居している方々への対応に万全を期しながら、地域振興につながる市営住宅の整備を。

A 建て替えによる余剰地が発生した場合は、分譲住宅地や高齢者向け賃貸住宅などを検討し、地域振興につなげていきたい。

川崎 順次議員

◆社会福祉基金について

Q 民生委員の活動は、一人暮らし、老老夫婦などの見守りや安否確認など、多岐に

わたり山積している。本市として充実した対応を。

A 平成23年度から地域福祉推進員、今年度から地域サポーターという制度を設けており、民生委員との連携を十分に図りながら活動を行っていた

Q 障がいをお持ちの方に対する心優しいまちづくりを進めるうえで、市役所内ではどのような対応を行っているか。

A 筆記や手話による対応のほか、1階には点字ブロックやトイレの誘導用チャイムを設置しているところである。

二木 攻議員

◆木場潟周辺トレッキングコースについて

Q コースを作った趣旨は。

A 木場潟公園と憩いの森を結ぶトレッキングコースを設けることにより、木場潟公園の更なる利用促進を目指すものである。

Q 補正予算の使い道は。

A コース誘導の案内看板、道路補修整備、コース案内用パンフレットなどである。

Q 木場潟百万人構想の中の位置づけは。

A ウォーキングのメッカ、スポーツ交流の拠点と位置づけている。

宮橋 勝栄議員

◆スマートシティこまつプロジェクト推進費について

Q 事業はどのようなものか。

A 金沢大学に調査研究を委託し、低炭素地域づくりの方策を検討する。

Q 新ごみ処理施設も低炭素地域に向けた重要な取組であるがその関連は。

A 一般廃棄物の焼却熱発電、予熱利用等で、既存の施設稼働時に比べてCO2を約20%削減できる見込みである。

Q かつてはエネルギーの大半を森から得てきた。森林資源をどのようにいかしているのかも重要な視点である。

A 森林資源も市の大きな財産であり、しっかりと研究を行っていきたい。

## 維新こまつ

高野 哲郎議員

◆ひとものづくり科学館管理運営費について

Q 今定例会において、補正予算で300万円、債務負担行為で2400万円、計2700万円が「ひとものづくり科学館管理運営費」で計上されている。特別企画展の費用と聞いているが、「高い」「安い」